

2022年3月期 第1四半期 決算説明資料

株式会社キトー（東証1部：6409）

2021年8月5日

2022年3月期 第1四半期 サマリー

概況

米国・中国を中心に経済活動の回復が本格化。売上、各段階利益とも過去最高水準を記録

業績

(単位：百万円)	2022/3期 Q1	対2021/3期Q1比	(参考) 対2020/3期Q1比
売上高	13,797	+37.2%	+4.1%
営業利益	992	+341.8%	+18.4%
当期純利益※	660	—	+101.8%

※親会社株主に帰属する四半期純利益 / 為替平均レート 1ドル=109.5円

総括

- ・ 米・欧の経済活動が回復し、需要は急速に拡大
- ・ 中国は内需を中心に引き続き好調に推移
- ・ 日本はワクチン接種が遅れながらも、緩やかな回復基調が継続
- ・ 経済活動の回復を背景とした海上輸送の混乱、資材費コスト上昇に注視

1

2022年3月期 第1四半期 決算報告

2

2022年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

2022年3月期 第1四半期 決算ハイライト

(単位 百万円)	2020/3期 Q1	2021/3期 Q1	2022/3期 Q1	前期比
売上高	13,247	10,058	13,797	+37.2%
売上総利益 売上総利益率	4,931 37.2%	3,576 35.6%	4,735 34.3%	+32.4%
営業利益 営業利益率	837 6.3%	224 2.2%	992 7.2%	+341.8%
経常利益 経常利益率	587 4.4%	222 2.2%	972 7.0%	+336.9%
親会社株主に帰属する 四半期純利益 当期純利益率	327 2.5%	△322 △3.2%	660 4.8%	—
EBITDA =営業利益+償却費	1,587	951	1,761	+85.2%

注 為替レート (2021/3期Q1→2022/3期Q1) :

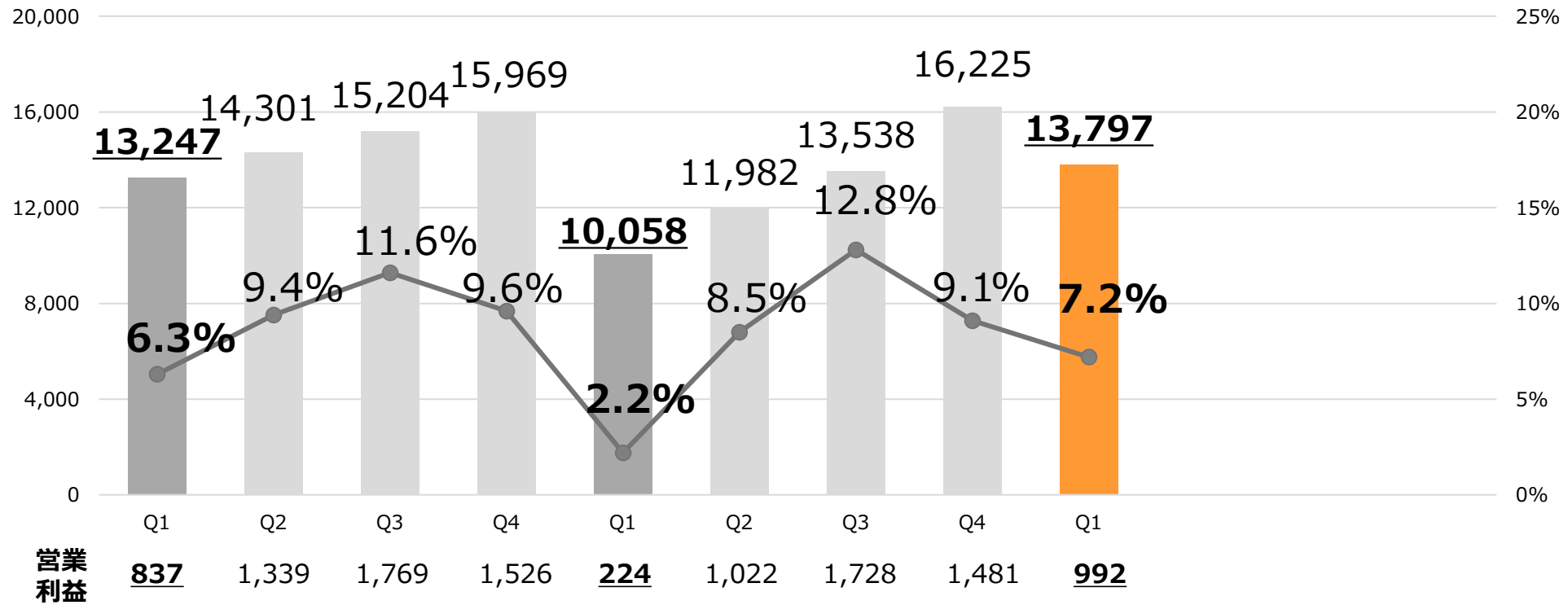
USD 107.6→109.5円 CAD 77.7→89.2円 EUR 118.5→132.0円 RMB 15.6→16.4円

売上高および営業利益率（四半期比較）

需要回復を受け、売上高はQ1として過去最高を記録

(単位：百万円)

■ 売上高 ● 営業利益率



営業利益

837 1,339 1,769 1,526 224 1,022 1,728 1,481 992

2020/3期
売上高 58,722
営業利益 5,474

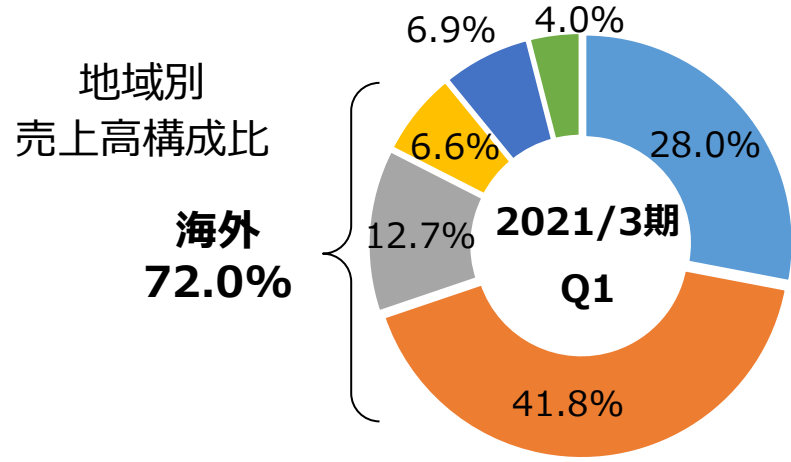
2021/3期
売上高 51,805
営業利益 4,457

2022/3期 (予)
売上高 55,000
営業利益 5,000

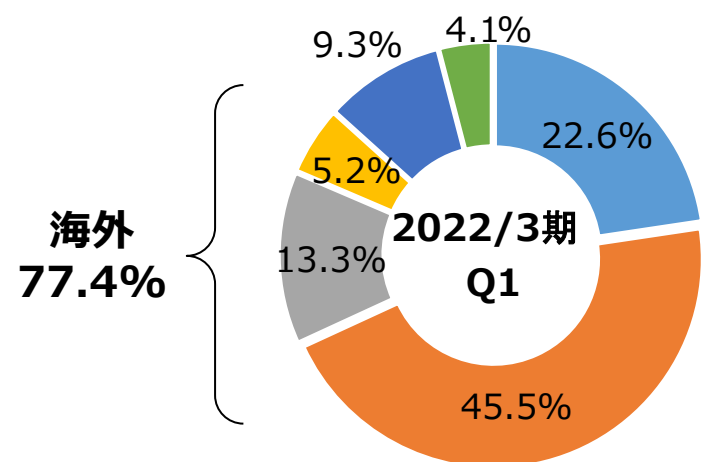
地域別の状況

(単位：百万円)	2020/3期 Q1		2021/3期 Q1		2022/3期 Q1		前年同期比	
		構成比		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	13,247	100.0%	10,058	100.0%	13,797	100.0%	3,738	37.2%
日本	3,282	24.8%	2,818	28.0%	3,123	22.6%	305	10.8%
米州	6,084	45.9%	4,202	41.8%	6,277	45.5%	2,074	49.4%
中国	1,804	13.6%	1,278	12.7%	1,835	13.3%	556	43.5%
アジア	763	5.8%	663	6.6%	723	5.2%	59	9.0%
欧州	774	5.8%	694	6.9%	1,277	9.3%	583	84.0%
その他地域	538	4.1%	401	4.0%	559	4.1%	158	39.6%

注 為替レート (2021/3期Q1→2022/3期Q1) :
 USD 107.6→109.5円 CAD 77.7→89.2円 EUR 118.5→132.0円 RMB 15.6→16.4円

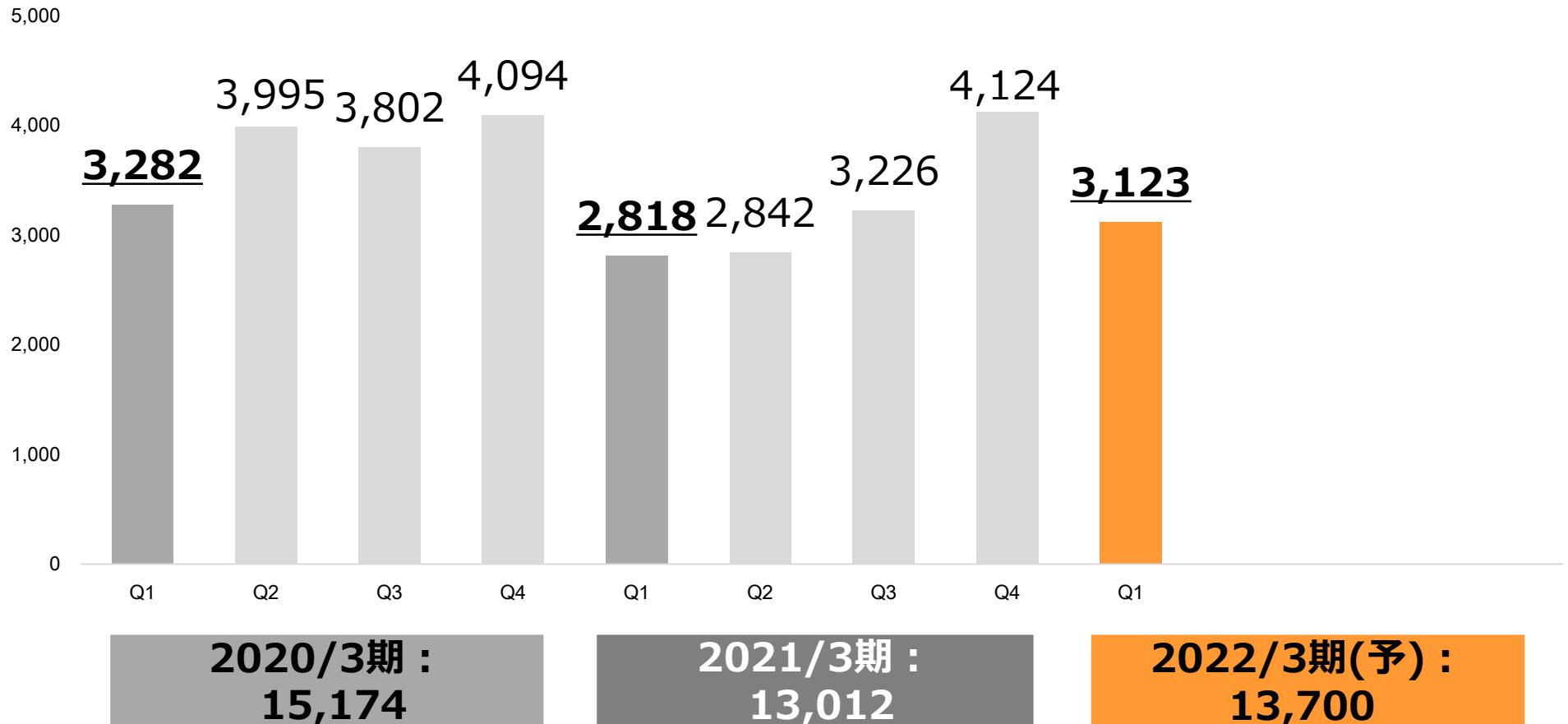


- 日本
- 米州
- 中国
- アジア
- 欧州
- その他



地域別売上高（日本）

- 昨年度下期からの回復基調が継続
- 遅れたワクチン接種も徐々に進行し、取り巻く事業環境にも明るい兆し
(単位：百万円)



地域別売上高（米州）

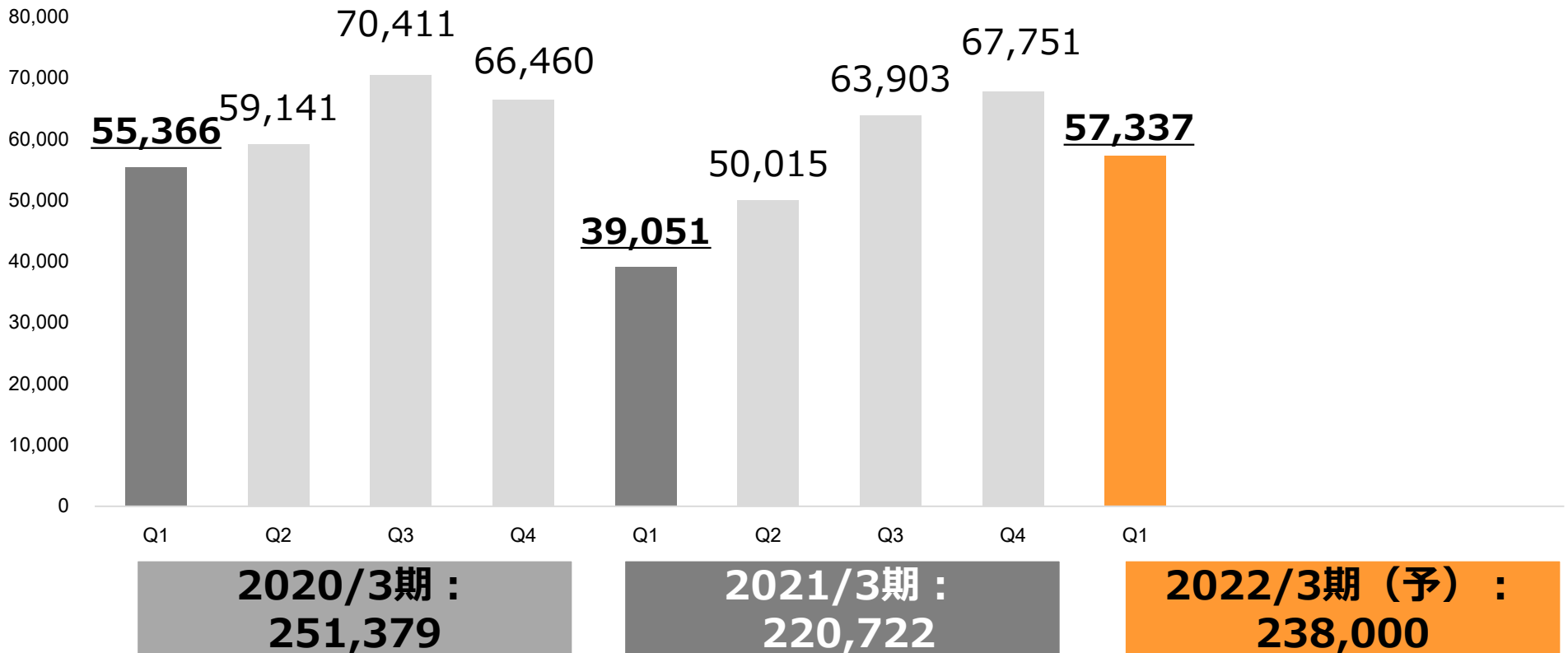
※グラフは米国市場売上高にカナダ及び中南米市場（USD換算）を加算した金額の推移

◇米州事業の特徴

日本と同様にホイストを中心としたマテハン事業に加えて、ピアレス社のクサリ関連事業で構成

- 経済活動の回復を受けて需要が急拡大、幅広い産業で荷動きが活発化
- 海上輸送の混乱も、製品供給とサービスレベル維持に注力。更なるシェア拡大へ

（単位：千USD）



地域別売上高（中国）

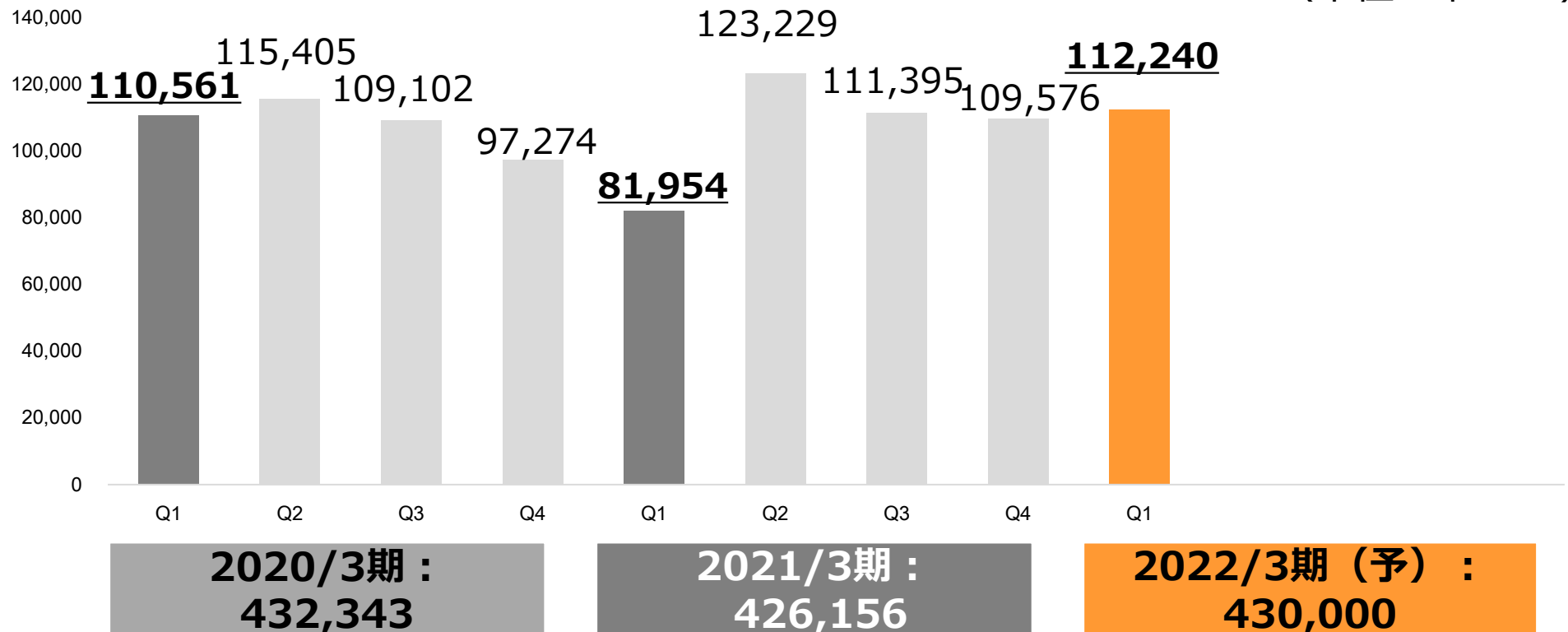
※中国は1-12月決算

◇中国事業の特徴：

中国市場向けロープホイストの製造販売と、日本からの高機能製品の輸入販売が事業の2本柱

- 昨年来、内需を中心とした需要動向は堅調
（中国セグメントは1～3月がQ1）

（単位：千RMB）



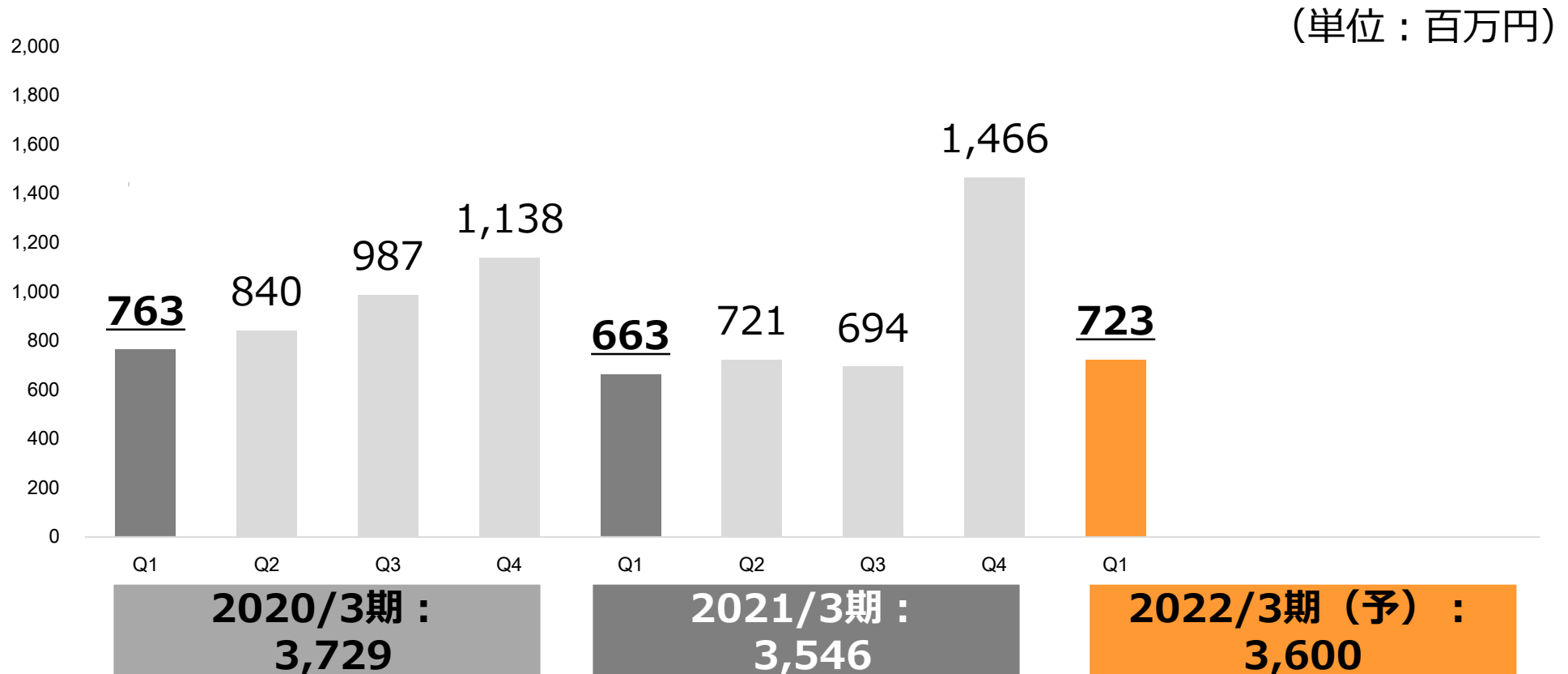
地域別売上高（アジア）

※タイ、韓国、台湾は1-12月決算、インドネシア、インドは4-3月決算

◇アジア事業の特徴：

主軸のタイ、韓国でクレーン事業を手掛ける。事業構造を見直し収益性拡大を図る。

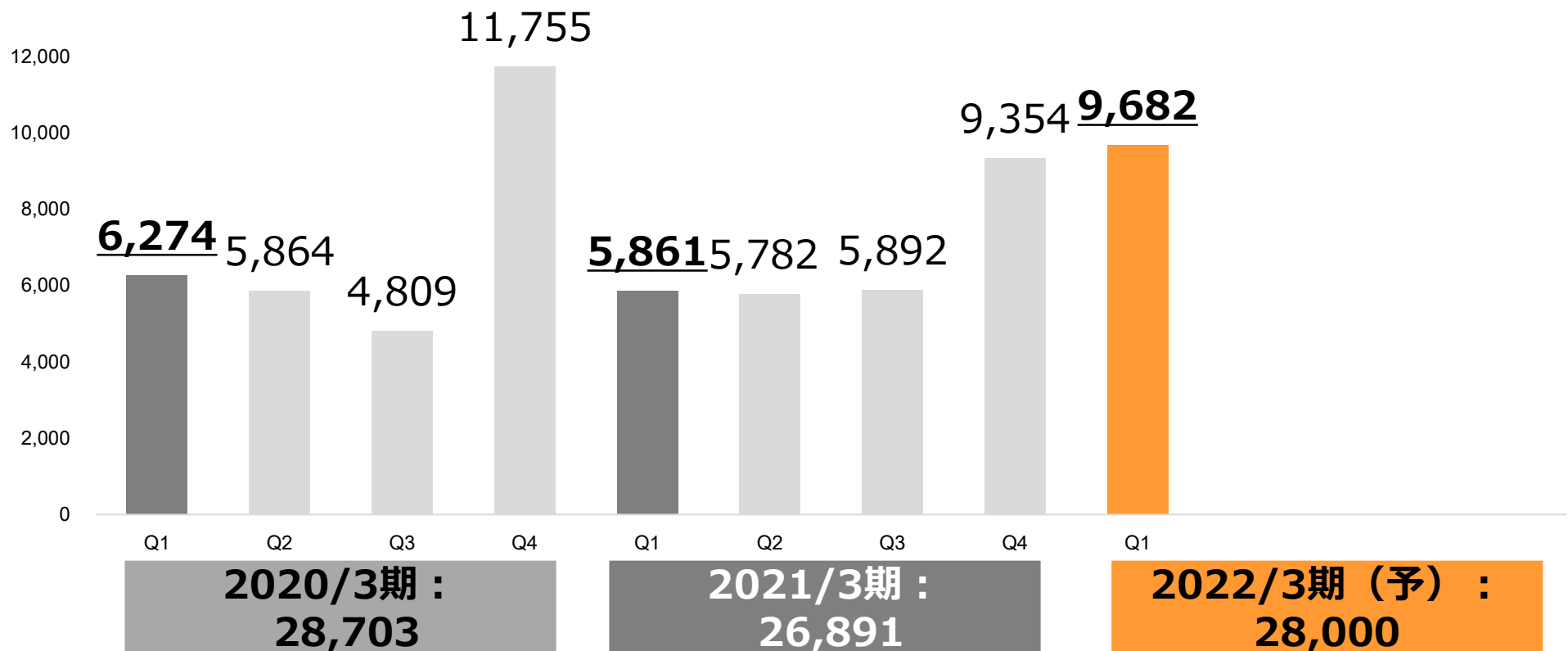
- コロナ禍の影響は比較的軽微であったものの、変異株の影響から回復は足踏み



地域別売上高（欧州）

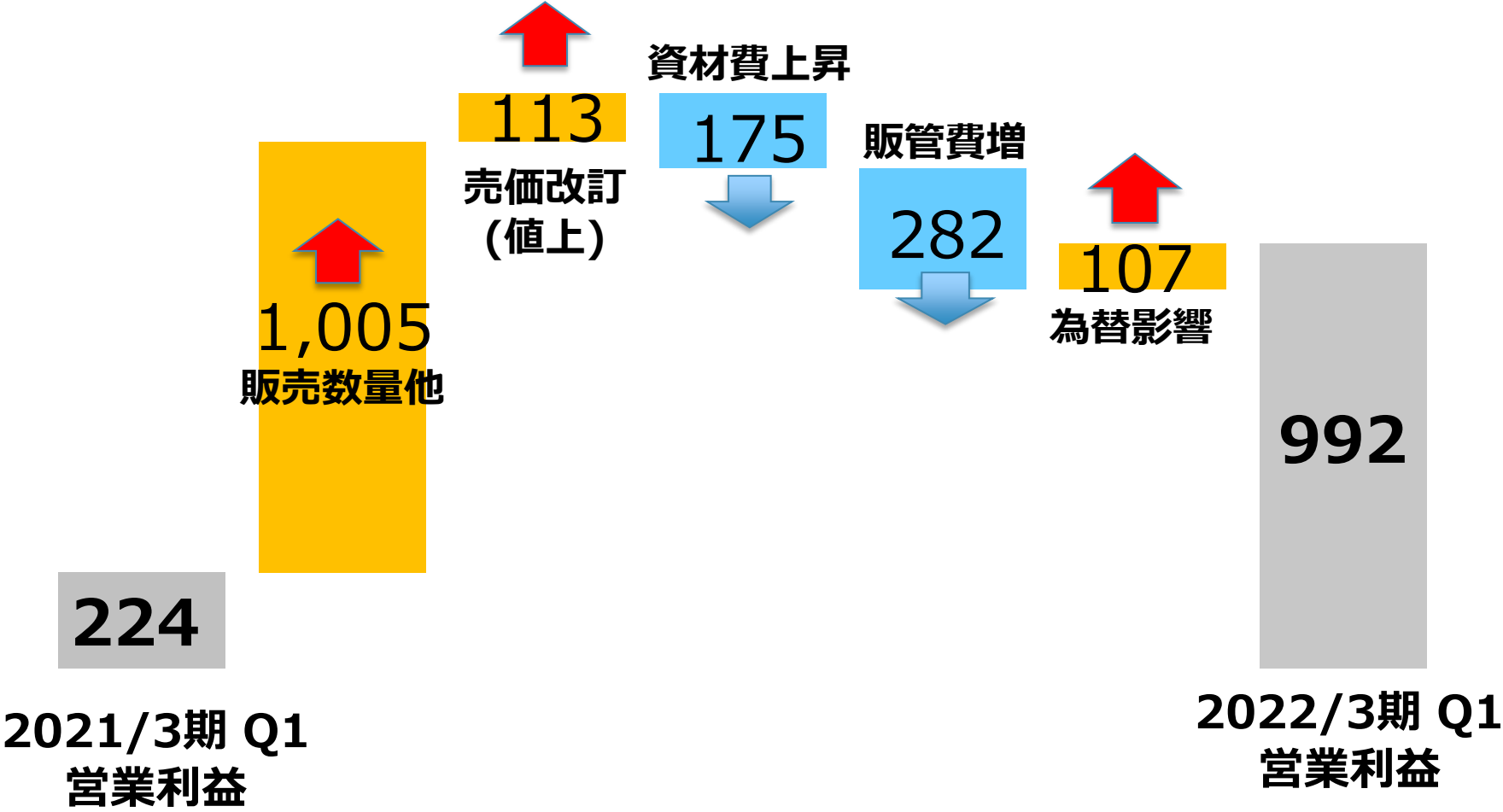
- 昨年度末にオランダ子会社を連結
- 競合との差別化による着実な市場浸透により、拡大する需要を捉える

（単位：千EUR）



営業利益の比較

(単位：百万円)



2022/3期 Q1 連結貸借対照表 (前年同期比)

単位：百万円	2021/3期 Q1	2022/3期 Q1	増減額	単位：百万円	2021/3期 Q1	2022/3期 Q1	増減額
流動資産	42,816	41,097	△1,718	流動負債	23,752	16,246	△7,506
現金及び預金	14,708	11,433	△3,275	支払手形及び 買掛金	5,248	6,032	783
受取手形、売掛金 及び契約資産	7,658	10,354	2,695	短期借入金 *	13,271	5,008	△8,263
棚卸資産	18,859	17,475	△1,384	その他	5,231	5,205	△26
その他	1,589	1,834	244	固定負債	14,090	14,834	744
固定資産	21,755	21,243	△512	長期借入金	10,183	11,214	1,030
有形固定資産	12,513	12,724	211	その他	3,906	3,620	△286
無形固定資産	5,133	4,833	△299	純資産合計	26,729	31,260	4,530
投資その他の資産	4,108	3,684	△423	負債純資産合計	64,572	62,341	△2,230
資産合計	64,572	62,341	△2,230				

* 1年内返済予定の長期借入金を含む

1

2022年3月期 第1四半期 決算報告

2

2022年3月期 見通し

3

参考資料

- 過去5期分の業績・財務情報（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

2022年3月期 業績予想

- 好機を捉え、コロナ禍以前の業績への早期回復、需要変動に左右されない事業体質
- 市場回復に乗じたインフラ需要の取り込み等による、コロナ禍以前の業績への回帰
- 環境に配慮したサプライチェーン、安全な作業環境提供など、広く社会に貢献する

(単位 百万円)	2021/3期	2022/3期 (予想) (直近公表より変更なし)	前期比
売上高	51,805	55,000	+6.2%
営業利益	4,457	5,000	+12.2%
営業利益率	8.6%	9.1%	
経常利益	4,550	4,800	+5.5%
経常利益率	8.8%	8.7%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,344	3,200	+36.5%
当期純利益率	4.5%	5.8%	
EBITDA	7,503	7,900	+5.3%
=営業利益+償却費			
設備投資	2,504	3,500	

注 為替レート (2021/3期→2022/3期) :

USD 106.1→105.0円 CAD 80.3→85.0円 EUR 123.7→125.0円 RMB 15.5→16.0円

日 本 売上予想 13,700百万円（前期比+5.3%）

市場環境

- 内需に先行し、輸出産業の動きが顕在化
- ワクチン接種率の高まりとともに需要動向にも明るい兆し

取り組み

- 専任営業による大型物件への営業力強化
- 生産性向上のための設備投資を継続
- ECサイトの拡充と顧客サービスの向上

米 州 売上予想 25,000百万円（前期比+6.8%）

市場環境

- 経済活動の再開により、需要は急拡大
- 引き続き、海上輸送の混乱、資材費上昇を注視

取り組み

- 拡大したシェアと市場回復との相乗効果を発揮
- 販売価格の見直し、製品の安定供給と顧客サービス維持に注力

中国 売上予想 6,900百万円（前期比+4.6%）

市場環境 ● 環境、品質に対する意識の高まりによりシェア拡大傾向

取り組み ● 好調業種の設備投資需要を捉え、販売拡大を図る
● 販売ネットワークの拡充により、さらなるシェアの拡大へ

アジア 売上予想 3,600百万円（前期比+1.5%）

市場環境 ● 韓国の液晶関連需要は低調傾向
● 変異株の影響から経済活動の回復は足踏み状態

取り組み ● クレーンのメンテナンスなどサービス事業、ホイスト販売の強化
● タイ、韓国における顧客基盤拡大を推進

欧州 売上予想 3,600百万円（前期比+8.2%）

市場環境 ● 経済活動再開に伴う需要回復に期待

取り組み ● 買収子会社による相乗効果で、さらなる事業拡大

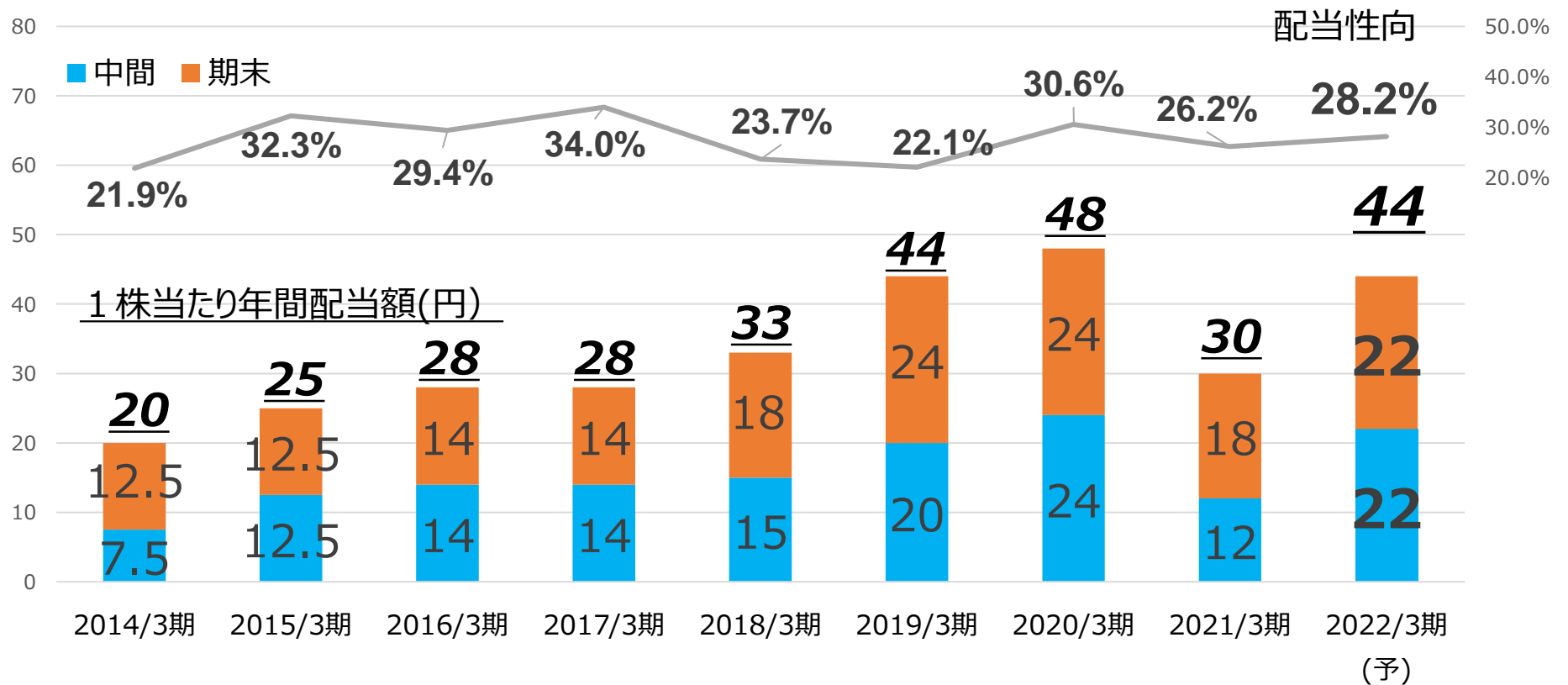
2022年3月期 業績予想 (地域別)

(単位：百万円)	2021/3期		2022/3期 (予想)		前期比	
		構成比		構成比	増減額	増減率
売上状況	51,805	100.0%	55,000	100.0%	3,195	+6.2%
日本	13,012	25.1%	13,700	24.9%	688	+5.3%
米州	23,409	45.3%	25,000	45.5%	1,591	+6.8%
中国	6,596	12.7%	6,900	12.6%	304	+4.6%
アジア	3,546	6.8%	3,600	6.5%	54	+1.5%
欧州	3,326	6.4%	3,600	6.5%	274	+8.2%
その他地域	1,913	3.7%	2,200	4.0%	287	+15.0%

注 為替レート (2021/3期→2022/3期) :

USD 106.1→105.0円 CAD 80.3→85.0円 EUR 123.7→125.0円 RMB 15.5→16.0円

株主還元方針／配当予想



(注) 下記の株式分割を行っており、上記配当額は当該株式分割を勘案した数値を記載しております。

2013年4月1日付：普通株式1株→100株、2014年10月1日付：普通株式1株→2株

(注) 2014/3期につきましては、2014年10月1日の株式分割前となる中間期の実際の1株当たり配当額は25円となり、株式分割後の期末の1株当たり配当額は2分割後の12.5円となります。

1

2022年3月期 第1四半期 決算報告

2

2022年3月期 見通し

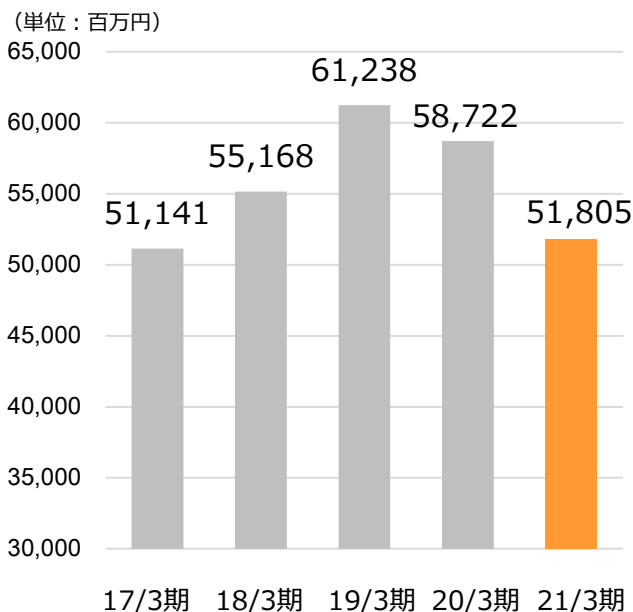
3

参考資料

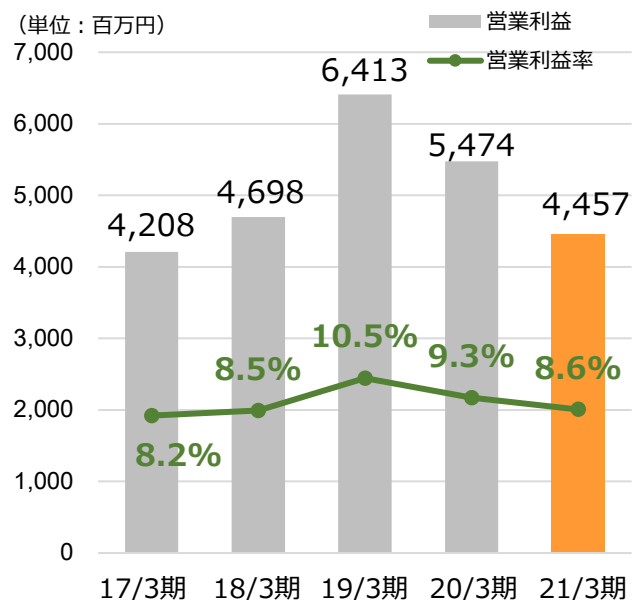
- 過去5期分の業績・財務情報（2017年3月期-2021年3月期）
- 事業内容について

業績・財務情報

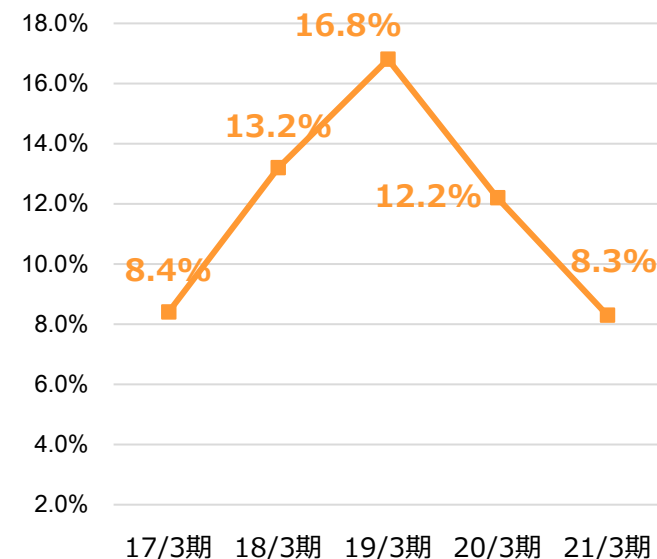
売上高



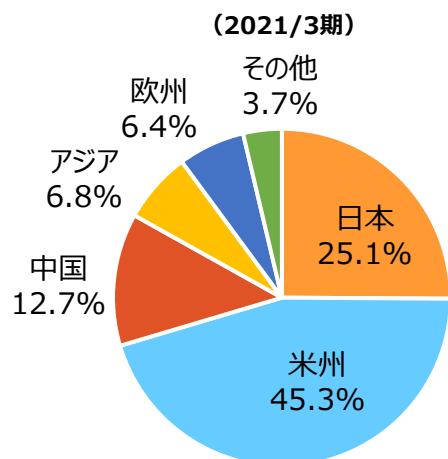
営業利益・営業利益率



ROE



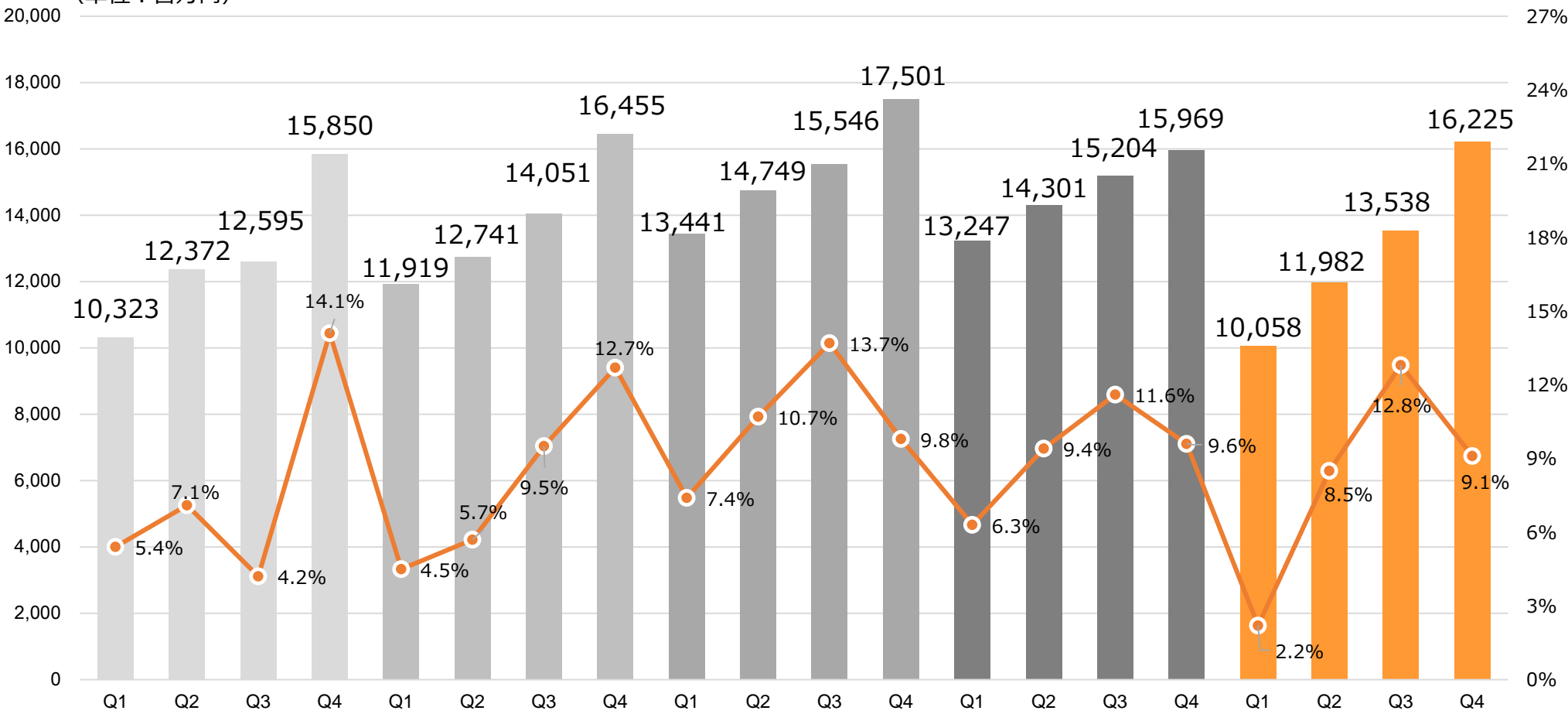
地域別売上高比率



	2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
海外比率	74.3%	76.0%	73.6%	74.2%	74.9%
為替平均レート					
USD	108.4円	110.9円	110.9円	108.7円	106.1円
CAD	82.5円	86.5円	84.6円	81.8円	80.3円
EUR	118.8円	129.7円	128.4円	120.8円	123.7円
RMB	16.4円	16.6円	16.7円	15.8円	15.5円
設備投資額(百万円)	2,393	1,411	1,416	1,689	2,504
減価償却費(百万円)	1,792	2,116	2,470	2,711	2,697

売上高 及び 営業利益率 (四半期比較)

(単位：百万円)



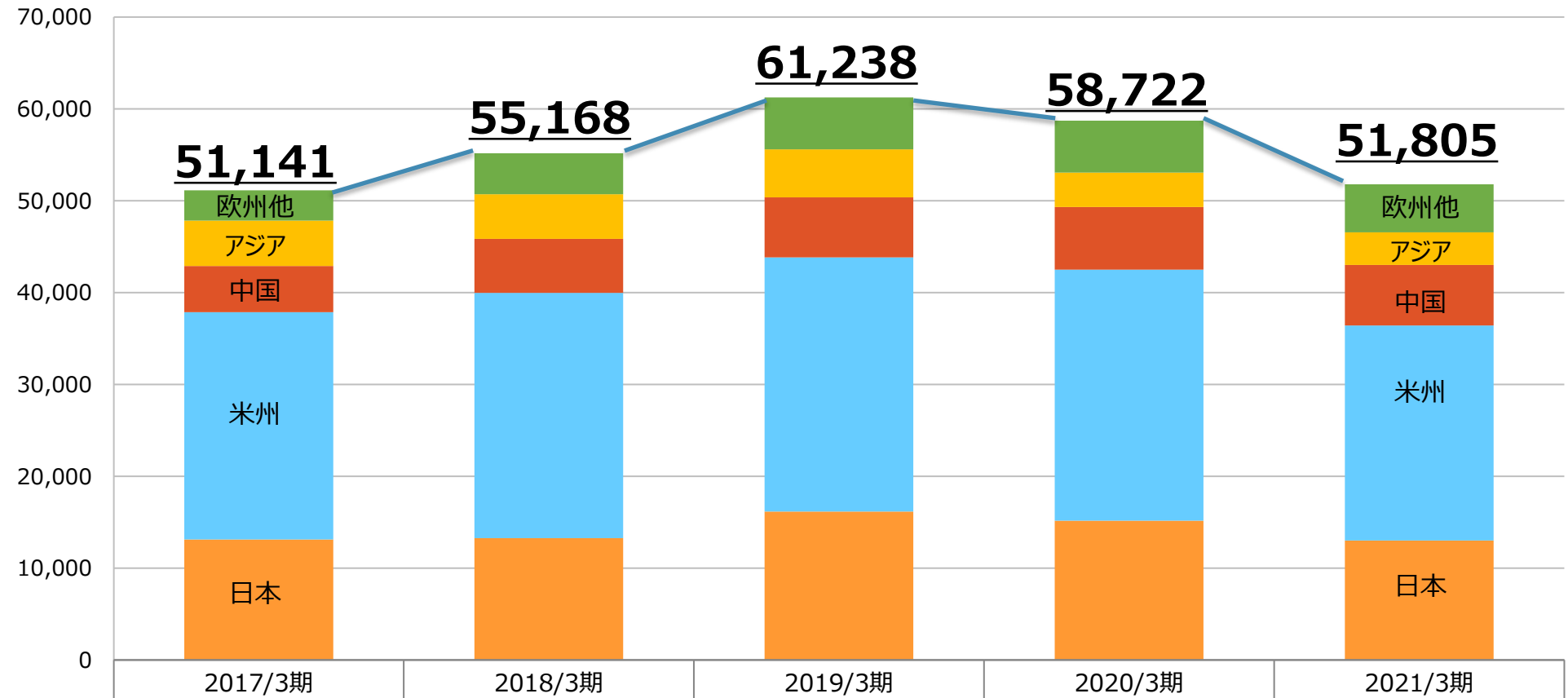
営業利益

561 876 532 2,239 538 730 1,338 2,092 992 1,572 2,131 1,717 837 1,339 1,769 1,526 224 1,022 1,728 1,481

2017/3期	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期
売上高 51,141	売上高 55,168	売上高 61,238	売上高 58,722	売上高 51,805
営業利益 4,208	営業利益 4,698	営業利益 6,413	営業利益 5,474	営業利益 4,457

地域別売上高推移

(単位：百万円)



■ 欧州他	3,308	4,465	5,634	5,663	5,239
■ アジア	4,925	4,837	5,239	3,729	3,546
■ 中国	5,034	5,903	6,539	6,822	6,596
■ 米州	24,742	26,700	27,663	27,332	23,409
■ 日本	13,129	13,261	16,162	15,174	13,012

事業内容

モノを持ち上げ、運び、固定する作業に不可欠な、 マテリアルハンドリング機器の リーディングカンパニー



経済の発展段階に応じた需要

特定の業界の動向に依存せず

成熟製品でありながら成長産業

■ クレーン

ホイストとの組合せで3次元の動きを実現



■ ホイスト（巻上機）

主力はクサリ（チェーン）式（電動・手動）
ワイヤロープ式もラインナップ（電動）
（中国においてはロープ式が主力）



■ ビローフックデバイス （吊り具）

ホイストで荷物を吊り上げる際の
中間アタッチメント



■ 各種クサリ製品

運搬・移動・固定・牽引
船舶、農林業、タイヤチェーンなど



顧客ニーズの拡大



“KITO” = “信頼のブランド”

製品力

耐久性	高性能
安全性	操作性

技術力

顧客の複雑なニーズへの高い技術対応力（エンジニアリング）

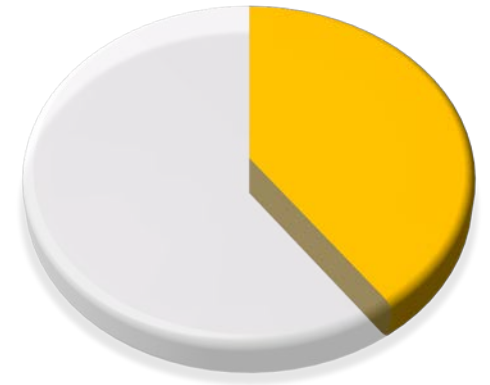
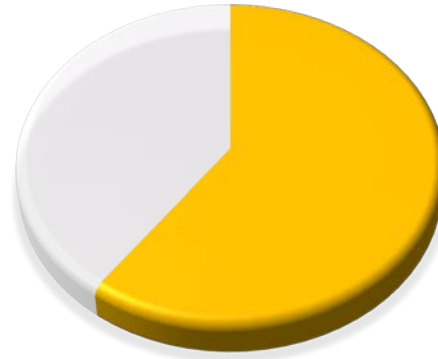
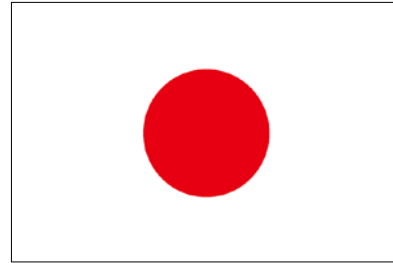
サービスネットワーク

広範なネットワークによる顧客満足度の高いサービスを実現



高付加価値製品・サービスの提供により差別化を実現
高品質市場での高い評価

信頼に基づく高いシェア



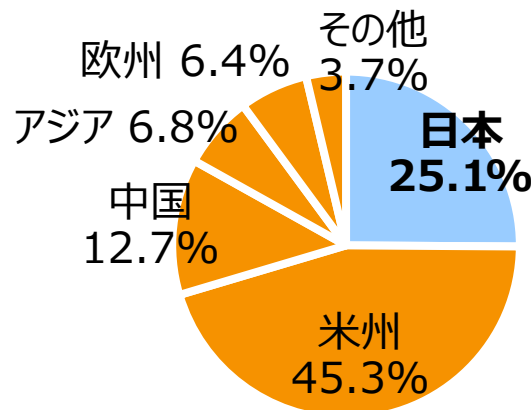
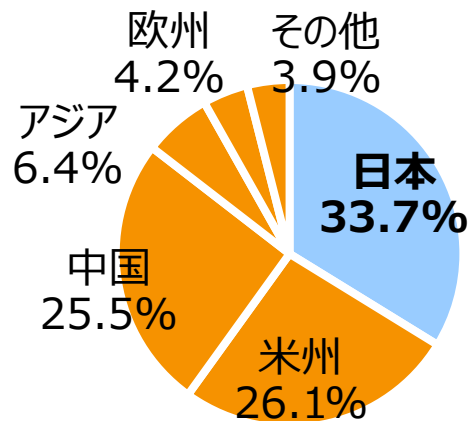
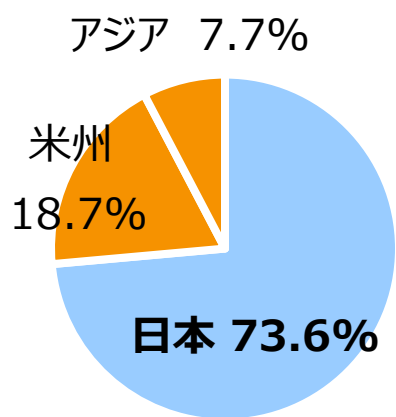
海外市場での成長

- 海外市場での成長により、地域分散の効いた事業ポートフォリオ構築
- 特定地域の需要動向に振られることなく、着実な成長を実現

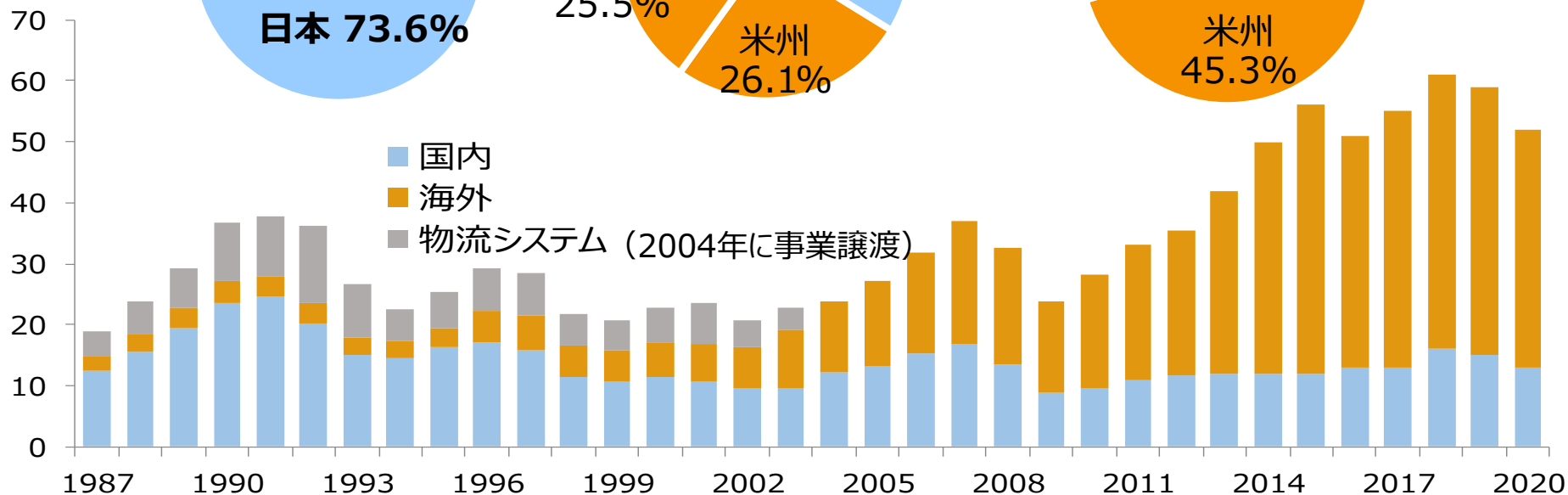
FY2000 売上高227億円
海外売上比率 26.4%

FY2010 売上高280億円
海外売上比率 66.3%

FY2020 売上高518億円
海外売上比率 74.9%



単位: 10億円



市場動向に左右されにくい顧客基盤

- 民間設備投資、公共投資を問わず、広範な顧客基盤
- 特定の業界や、市場サイクルの影響を、受けにくい事業構造

工作機械受注統計（内需） キトー国内売上推移（12ヶ月移動平均）

（2015年4-6月期を「1」とした指数変動）

